

◆協議会20周年特集◆

日赤図書館協議会の現状と課題

鳥淵早希子

1994年に有志の呼びかけからはじまった日赤図書館協議会の活動が、早いもので、今年で設立20周年を迎えた。ここでは、事務局の立場から見た現状と今後の課題について述べる。

I. 運営と職能団体について

当協議会の運営は大きく分けて2度の変遷を経て、現在の委員会制となった。設立当時、幹事数名ですべての事業を行っていたが、人員を確保することが難しくなったため、2008年から全会員を地域ブロックに分けて各事業を実施(地区ブロック別の持ち回り制)。さらに、協議会の職能団体としての存在意義を明確にして各事業のレベルアップを図るという方針に基づき、2012年から、事業別に分けた委員会を設置し、各委員会には、それぞれ幹事となる委員長と数名の委員のもとに協力委員を置いた現在の委員会制へと変更になった。委員会制では、すべての会員は、いずれかの委員会に属して運営に携わっている。

当協議会は、設立初期から、日本赤十字社(以下、本社)から職能団体として承認され活動を続けているが、2012年3月、本社から、

日本赤十字社医療施設職員によって構成される団体及び学会等の適正な運営を図るための登録制度を設ける通達があった。当協議会では、団体登録の承認を得(登録番号：医療登録第10号)、毎年更新している。

現在の会員数は、65名である。本年度、多数会員の入会があったが、当協議会コンソーシアムに参加する目的が大きいのと思われる。会員の増加は望ましいが、当協議会の活動を発展させていくためには、会員がもっと積極的に活動することが必要であると考えている。

II. ホームページ

ホームページは、2003年8月に、担当幹事の尽力により開設し、2012年にリニューアルされ現在に至っている。設立当初から、会員による雑誌所蔵目録の作成、電子ジャーナルサポート、文献検索&マニュアル等、業務に役立つリンク集や掲示板等をつくって情報を交換する等、業務効率アップに貢献している。また、他の病院図書館ネットワークとは、機関誌の交換のほかに、ホームページの掲示板書き込み等による公開講座の案内・参加により対外交流をおこなっており、広報と対外交流の役割も果たしている。

会員限定のページでは、総務・会計・研修等の運営マニュアルの項目等を作成して情報の共有を図り、また、会員コミュニティを利

TORIBUCHI Sakiko

日赤図書館協議会事務局長

日本赤十字社和歌山医療センター

用して各委員会等からの様々な情報を発信・受信ができるよう作成し、会員に有益な情報を提供している。

なお、災害活動等の有事の際にも活用できるよう、モバイル端末に対応した情報発信の場とすることを検討している。

III. 震災関連救護・復興支援活動

(文献の無料提供)

2011年の東日本大震災の影響で、必要とする学術情報が入手しにくい被災施設（水戸、大田原、仙台、石巻、盛岡）を対象に、全国の赤十字病（産）院に震災関連救護・復興支援活動（文献の無料提供）のご協力をお願いしたところ、多くの施設からご理解いただき、支援活動を行った。実施期間は、2011年6月1日から2012年3月31日まで、提供文献の件数は497件、無償支援参加施設は45施設であった。当協議会では、今後も、このような赤十字の基本的理念に通じる支援活動を行っていく方針である。

IV. 電子医学資料のコンソーシアム

本社で奨励している赤十字のスケールメリットを活かした電子医学資料の共同購入を、当協議会でも、昨年度からコンソーシアム委員会を発足して行っている。なお、当協議会コンソーシアムでは、代理店を通さず直接で出版社等と契約することで、より安価に購入することが可能となっている。

V. 会 計

4,000円の年会費を、本年度から10,000円に値上げした。これにより、当協議会のホームページのシステムのリニューアルや研修会の充実、各事業のレベルアップを図る。健全な事業運営のため、余裕をもった財政状態を維持していきたいと考えている。

VI. 最後に

パソコン、インターネットの普及に伴い、雑誌の電子化や医療情報の提供のあり方まで、環境が急速に変化する中、図書室担当者には、利用者のニーズに沿った対応ができるよう一層のレベルアップが求められている。当協議会は、日赤病院図書室の充実と向上に努め、医療情報活動を通じて赤十字医療事業の発展に貢献できるエキスパートになれるよう援助していかなければならないと考える。

職能団体である当協議会では、会員が情報提供のエキスパートとして必要な技術と知識を得られるよう研修会を開催し、機関誌を発行している。また、電子医学資料のコンソーシアムやホームページの継続、製本雑誌の分担保管、会員間での文献代金を無料にする文献無料化（現在、試行中）を検討したり等、様々な事業を行うことで、会員の業務効率化とレベルアップ等のサポートができると思料している。そのために、会員の方々には、当協議会の事業に積極的に参加し、より充実した活発な事業活動ができるよう、協力していただけることを切望している。